

社団法人 日本循環器学会
2007年度第4回理事会議事録

日 時 2008年(平成20年)3月27日(木) 14時30分～17時00分

場 所 ホテル日航福岡 5F 志賀

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前2-18-25

理事現在数：20名

出席：和泉 徹、小川 聡、小川久雄、奥村 謙、笠貫 宏、北 徹、児玉逸雄、島本和明、
高田重男、鄭 忠和、土居義典、友池仁暢、永井良三、藤原久義、堀 正二、堀江 稔、
松崎益徳、水野杏一、山口 徹、横山光宏

欠席：なし

その他出席者

名誉会員：21名

監事：今泉 勉、島田和幸

幹事：大津欣也、川嶋成乃亮、高山守正、西垣和彦、野原隆司、藤井崇史、藤田正俊、堀内久徳、
松森 昭、湊口信也、南野哲男、矢野雅文

ワザバ：中澤 誠(日本小児循環器学会) 村松孝夫(財団法人日本心臓財団)

事務局：加藤安雄(事務局長) 清水光則(事務局長代理)

・議事

第1号議案 2007年度事業報告

第2号議案 新入会員の承認

第3号議案 委員会報告

- 1) 学術委員会
- 2) 教育研修委員会
- 3) 循環器救急医療委員会
- 4) 禁煙推進委員会
- 5) 専門医制度委員会
- 6) 情報広報委員会
- 7) 編集委員会
- 8) 学術集会運営委員会
- 9) 健保対策委員会
- 10) 医療安全・医療倫理委員会
- 11) 国際交流委員会
- 12) 財務委員会
- 13) 心臓移植委員会
- 14) 総務委員会
- 15) 国内交流委員会
- 16) コメディカル委員会

第4号議案 年次学術集会に関する件

- 1) 第72回年次学術集会報告
- 2) 第73回年次学術集会報告

第5号議案 その他

- 1) 2007年度就任評議員・正会員代表の報告(追加分)
- 2) 総会への上程事項について
 - 2005年度収支決算報告(追認)
 - 2006年度収支予算修正
 - 2007年度事業計画及び収支予算の承認

・議事の経過及び結果

- 1) 定刻になり、山口理事長が議長となり開会した。
- 2) 藤田総務幹事から、出席者数は定款第25条の定数を満たし、理事会が成立していると報告があった。
- 3) 議長が、議事録署名人として第72回松崎会長と第73回堀会長を指名し、了承された。
- 4) 藤田総務幹事から、配布資料および回覧資料の確認があった。
- 5) 資料に記載の1名の物故会員に対して黙祷が捧げられた。
- 6) 前回理事会議事録の確認がなされた。
- 7) 議長から、理事長としての2年間についての挨拶と謝辞があった。

第1号議案 2007年度事業報告

藤田総務幹事から、2007年度事業について資料に沿って説明があり、承認された。

第2号議案 新入会員の承認

藤田総務幹事から、2007年12月1日から2008年1月31日までの新入会員134名が資料に基づいて説明され、承認された。

第4号議案 委員会報告

1) 学術委員会

堀委員長から以下の点について報告があった。

2006年循環器疾患診療実態調査(主査:土居義典先生)について、内容が充実し、専門医研修施設回収率も88%となり、調査としても軌道に乗ってきた。2007年調査も継続して進める。専門医各施設データについては、自施設閲覧ができるような環境に改善された。

ガイドラインダイジェスト版ポケット版(5冊組)が4,500部作成された。第72回学術集会会期中開催のガイドラインに学ぶ、ガイドライン解説セッション及び日循広報ブースで配布する。

厚労省から依頼のあった植え込み型補助人工心臓の実施基準がまとめられた。当会は協力学会となっているが、施設基準適応、医師の要件について日本胸部外科学会が取りまとめ、各学会の承認を得て、学術委員会でもこれを承認した。

2008年度発足「循環器診療における性差医療に関するガイドライン」(鄭忠和班長)の班構成が承認された。「循環器疾患における末期医療に関するガイドライン」(野々木宏班長)に参加学会として日本心不全学会が追加された。

ガイドライン転載許諾の合意事項が明文化された。

「肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症予防ガイドライン」(中野赳先生)の改訂版作成について、当会の参加と、代表委員に伊藤正明先生を推薦することとした。

日本腎臓学会からCKDに関する今後の活動(ガイドラインの策定、共同シンポジウム、調査研究の提案等、主に学術活動)に当会の参加依頼があり、2名ほど候補者を選出し、前向きに加わっていくことにした。

ガイドラインの利益相反開示について、詳細な規定については次期委員会の継続課題とし、厚労省からの提示や他学会の動きも勘案しながら前向きに対応する。

以上について、承認された。

2) 教育研修委員会

北委員長から以下の点について報告があった。

2008年度製作の循環器研修ビジュアルシリーズ企画について委員会で審議し下記の通り決定した。

「大動脈疾患の治療戦略」監修者案：上田裕一(名古屋大学心臓外科)、栗林幸夫(慶應義塾大学放射線診断科)

「心臓リハビリテーションの実際」監修者案：後藤葉一(国立循環器病センター心臓血管内科)

また当シリーズは初年度が2002年度と年数が経過したため、監修者の希望に応じて改訂版の製作を行うこととした。

第36回循環器教育セッションの企画について審議し、2セッションを下記のとおり決定した。

「高血圧の管理と心血管病」座長案：荻原俊男(大阪府立急性期・総合医療センター)、島本和明(札幌医科大学第二内科)

「循環器疾患の抗凝固・抗血小板療法」座長案：一色高明(帝京大学内科)、是恒之宏(国立病院機構大阪医療センター)

なお残り1セッションはライブデモとなる。

7月6日(日)に「第4回循環器専門医を志す研修医のための卒後セミナー」を木原委員が中心となって大阪で開催する。

以上について、承認された。

3) 循環器救急医療委員会

笠貫委員長から以下の点について報告があった。

JCS-ITCの活動の人的態勢が整ってきているが、設備面での補強が必要なので2008年度は資料に示したマネキンの購入およびレンタルを行いたい。

日本蘇生協議会の重要メンバーとして、松崎会長の了解を得て本日(3月27日)第1回J-ReSS(日本蘇生科学シンポジウム)を開催している。堀会長の第73回学術集会前日にも第2回を開催したい。

循環器救急医療のアンケートを継続して行い、現在策定している「心肺蘇生に関するガイドライン」にも結果を反映させたい。

以上について、承認された。

4) 禁煙推進委員会

藤原委員長から以下の点について報告があった。

2008年4月から新しい禁煙治療薬のバレニクリンが保険適用されることに伴い、「禁煙治療のための標準手順書」の改訂作業中である。厚生労働省との細部の確認などが残っているので、手順書の改訂内容に関しては禁煙推進委員会にご一任いただき、完成後は日本循環器学会ほかの3学会連名で4月中に一般公開する。

バレニクリンの保険適用に伴い、禁煙パスポート冊子も早急に、このバレニクリンのことを掲載した内容に改訂する。

日本たばこ産業（JT）の子会社である鳥居薬品からの学会への寄付等については、JTのものと同等とみなして拒否していただけるよう、来期への引継ぎ事項として、再度ご検討いただきたい。

第72回では、会長校主催の市民講座と禁煙推進市民公開講座が同時時間帯に重複していた。次回以降は、例えば両者の会場を近くに設定し、時間帯も前後に連続させるなどのご配慮をお願いしたい。

以上について、承認された。

5) 専門医制度委員会

土居委員長から以下の点について報告があった。

日本専門医認定制機構第8回協議会・第10回社員総会において、各学会の専門医資格が基本領域・内科系領域・外科系領域・共通領域など、どの区分にあたるかについて、現在検討中である。

2008年度指定及び指定更新研修・研修関連施設は以下の通りである。

- ・2008年度指定研修施設数 47、研修関連施設数 50
- ・2008年度指定更新研修施設数 508、研修関連施設数 119

研修・研修関連施設指定及び指定更新申請書を改訂を行った。主な改訂点は以下の3点である

- ・研修医の各科内訳等に関する記載欄を削除した。
- ・設備状況調査表全ての項目について検査
- ・治療件数の記入が必要であったが、審査に必要な項目もあること、また循環器疾患実態調査の調査項目との整合性も鑑み、循環器疾患実態調査の項目に挙がっているもののみ検査件数、治療件数を記載するよう変更した。
- ・医療倫理・安全に関する記載欄を自由記載方式から、チェック方式へと変更した。

専門医認定制機構に指摘された本学会の専門医制度の問題点下記3点について現在検討中である。

1) 循環器専門医の医師像について

2) 指導体制について

研修カリキュラムを基に、達成度評価チェックシートを作成し、受験申請時に受験者が研修した最終の研修（研修関連）施設の循環器専門医が一括してチェックを行う。日本専門医制評価・認定機構の専門医制度整備指針に「指導医マニュアルの作成」が記載されていることから、チェック表には、マニュアルを添付する。

3) 認定更新の際の必修研修内容について 認定期間内（5年間）の必修研修を下記のとおりとすることが決定した。

- ・最新医療の知識の習得に関する研修（学術集会・地方会への参加）30単位分
- ・医療倫理・安全・法律に関する研修2単位分

なお、医療倫理・安全・法律に関する研修の必須化を行うが、研修の機会を増やすため、学術集会で開催される医療倫理・医療安全講演会に関するセッションに加えて、インターネットで視聴研修

ができるようプログラムを構築する。

学術集会講演者の単位加算対象について

学術集会講演者の単位加算対象について、現在まで公平性がなかった為見直しを行った。演題応募は研修単位加算を目的としたものではなく、研究発表を目的としていることから、2008年度(73回学術集会)からは、演者単位の付与を行わない。これは、地方会にも準用される。

以上について、承認された。

6) 情報広報委員会

永井委員長から以下の点について報告があった。

英文ホームページのリニューアルについて、各委員より意見を頂きながら進めていくこととする。

News Letter について「【日本循環器学会 JCS News Letter Vol. 】タイトル」という標題で送信していたものを簡略化して「【日循メール】タイトル-JCS News Letter Vol. -」とわかりやすい標記に変更した。月に2回、1回あたり約16,000件を配信している。

学術集会では日循ブースの設営、プログラム検索システムの構築を実施した。

以上について、承認された。

7) 編集委員会

松崎委員長から以下の点について報告があった。

2008年の投稿論文数は毎月100編を超えるペースで、年間約1200編余の投稿が予想される。

内、60%をClinical Investigationが占め、Impact Factorの上昇の為にも引き続きExperimental Investigationの投稿を奨励する必要がある。

また、海外からの投稿は約45%である。

投稿論文の増加を受けて、2008年3月1日より、新たにAssociate Editorとして磯博康先生、伊藤正明先生、川筋道雄先生、木村一雄先生、代田浩之先生の5名にご就任頂いた。

掲載論文の増加により、採用から掲載までの日数が今年は120日を超えて来ている。

日数を80日程度に抑え、CJの特徴である発刊までのスピードを維持したいと考えるが、その意味でもCase Reportの採択率は30%程度に、また全体でも高々40%程度に抑える必要がある。

掲載論文の増加等の理由により、2006年に2.135であったImpact Factorも今後下がることが予想される。

採択率をより厳しくしていくとともに、海外誌に投稿する際にCJからの引用をお願いしたい。

現在、堀正二先生の査読・監修の元、心不全に関するReview ArticleをまとめたSpecial Issueが発刊予定である。2008年度には米田正始先生にご担当頂き、外科系のSpecial Issueの発刊に向けて、12名に執筆依頼を予定している。

以上について、承認された。

8) 学術集会運営委員会

児玉委員長から以下の点について報告があった。

第72回学術集会のプレナリーセッション、シンポジウムについて評議員250名を対象にEメールで事後評価アンケートを行うこととなり、委員会でアンケートの内容を審議した。

9つの学会賞の採点項目について検討し、佐藤賞は従来どおり、8つの論文賞については論文のクオリティ、オリジナリティ、貢献度の3項目を1点から5点で配点し、業績は添付は求めるが採点はしないこととした。

他学会からのジョイントプログラムの申し出があった場合は、今後は国内交流委員会を申し出の窓口とし、当委員会に振り分けがあった場合に検討することとなった。

内田賞の内容検討については時間がなく、継続審議とした。

以上について、承認された。

9) 健保対策委員会

和泉委員長から以下の点について報告があった。

平成20年度の診療報酬改定では、循環器系の要望はまずまず認められた印象がある。ただし心電図やエコーについて点数が下げられており、これらの影響は大きい可能性がある。

今回の改定においては、ガイドラインに従うという文言が多く加えられている。学会としては、ガイドラインの浸透を図ると同時に、その妥当性を検証していくことが必要であると考えられる。

日循独自のDPC調査については、厚生科研(松田班)と協力して調査を行っている。今後解析結果について報告していく予定である。

単回使用製品について、茅ヶ崎病院の事故は単回使用製品の再使用に起因するものではないことが判明している。しかし厚労省から単回使用の徹底が指導されており、循環器系ではトランスデューサー・ブロッケンプロード・パイオトーム等について、特定保険医療材料に含めていただくよう厚労省及びメーカーに要請し、認められる方向である。

72回学会における健保対策セッションとして、平成20年度診療報酬改定について厚労省の担当者から基調講演をしていただき、質疑応答を行う。

以上について、承認された。

10) 医療安全・医療倫理委員会

島本委員長から以下の点について報告があった。

外部からの医師紹介依頼について、2008年2月兵庫県警より「肺血栓塞栓症患者に対する一般的治療法、及び血栓溶解療法・カテーテルインターベンションについての一般的方法、適応、エビデンス、注意事項等に精通された医師から聴取することが捜査上必要であるので医師を紹介いただきたい」という内容の捜査関係事項照会書を受け、理事長指示の元、持ち回り会議を開催。県警の希望に準じ8名の医師を推薦した。

また、同2月都内法律事務所より患者側弁護に当たり、事実関係調査のために本学会作成ガイドラインの班員紹介を希望する依頼があった。理事長と相談の上、持ち回り会議を開催。学会として裁判所など鑑定人推薦には対応するが、原告・被告どちらか一方のみの要望に回答するのは公平を期すことができないとの考えから、紹介を断ることとした。

今後委員会では、裁判所以外からの医師紹介依頼についてどのように対応するか基本方針の検討が課題である。

第72回学術集会時 第7回医療安全・医療倫理に関する講演会について、「医療安全のために我々は今何をなすべきなのか」をテーマに識者を招いて開催する。聴講者には専門医更新に必要な単位が

付与される

以上について承認された

11) 国際交流委員会

小川委員長から以下の点について報告があった。

APSC 事務局活動について、2007 年会計においては、トム以外の 16 加盟国から年会費を徴収した。また、台湾で開催された第 16 回アジア太平洋心臓病学会から 5 万ドルの送金を受ける予定である。APSC 事務局を設置した 2006 年と比べて収支が改善されてきていることから APSC 事務局スタッフ人件費の支払を 2008 年 1 月以降 APSC で負担していく方針であるが、事務局賃貸料共益費については引き続き日本循環器学会からの支援をいただきたい。

APCC2009 活動について、2009 年 5 月 20 日から 23 日にかけて京都国際会館で第 17 回アジア太平洋心臓病学会を開催する。現在プログラム内容の検討を行っており、2008 年 5 月に確定する予定で作業を行っている。

以上について、承認された。

12) 財務委員会

横山委員長から以下の点について報告があった。

CJ.71 及び会告発行費用について、オンライン投稿管理や Supple. A の発刊等により費用が大幅に増加している。

監査法人トーマツによる支部への会計監査について、2008 年度は、東北、関東甲信越、東海の 3 支部が予定されている。

2008 年 1 月末日現在の 2007 年度予算執行状況について、一般会計では予算の範囲内と予想されていること。専門医会計では投資活動に於いてマイナスになる見込みであること。学術集会会計は、事業が未執行のためほとんどが反映されていないこと。また、監事による監査が行われたこと。

資料にある Vol.70-11 掲載者の論文掲載料が決算期末に於いて未納である場合には、雑損として取り扱うことを決定した。

以上、承認された。

13) 心臓移植委員会

藤原委員長から以下の点について報告があった。

2008 年 2 月 29 日現在の心臓移植および心肺同時移植適応検討の状況については資料のとおりである。関連学会に関する報告は以下の通りである。

- ・臓器移植法改正については審議されないままになっており、今期国会で審議されなければ廃案になる恐れがあり、日本移植学会を中心に国会議員への働きかけを行っている。
- ・東京女子医科大学の心臓移植自粛について自粛解除の要請があり、資料のとおり自粛解除を了承した。

日本移植学会から意見聴取された臓器別の移植専門医制度について検討し、以下の事由から心臓移植の専門医制度は時期尚早であるとの結果になった。

- ・専門医とは治療法などが確定した段階で、優秀・標準・下手な医師の定義付けがなされるもので、

心臓移植 50 例程度の現状では議論すべき問題でない。

- ・ 専門医とはクオリティーを保証する制度であって、心臓移植医療は現在チャレンジをしている段階である。
- ・ 心臓移植は治療を受ける施設が決まっている。

以上について、承認された。

14) 総務委員会

山口委員長から以下の点について報告があった。

「内田賞」については、学術集会運営委員会で詳細を検討いただいている。

新公益法人制度は、実施ガイドラインの発表が遅れており、発表され次第対応を考えて行く。

日本腎臓学会から合同委員会設置の要望があり、国内交流委員会を窓口として、具体的な提案について検討することとした。なおこのような申し出があった場合、国内学協会の場合は国内交流委員会が、海外の場合は国際交流委員会が窓口となり、個別の案件については適切な委員会に割り振る、という流れで今後取り扱うこととした。

中長期展望及び次期への申し送りについて、新公益法人制度への対応、他学会との協調、ESC あるいはアジア諸国との連携強化、フェロシップ制度創設、ガイドラインの英訳、英文の学会ニュースメール、さらにコメディカルとの連携、若手医師への教育といったものが挙げられた。次期総務委員会への引継ぎ事項とする。

以上について、承認された。

15) 国内交流委員会

島本委員長から以下の点について報告があった。

業者立会いについて、ワーキンググループで検討してきた。本年 3 月 5 日に厚生労働省・公正取引協議会・ペースメーカー協会・日循の四者協議会が開催され、ほぼ日循からの要望を認めていただく形で立会いを暫定的に延長することが合意された。3 月 18 日に最終的に公正取引協議会から通知が出され、各施設・業界団体に配布されている。

ICD-CRT に関する研修制度について、日本心不全学会から要望があった。日本心不全学会・日本不整脈学会・日本循環器学会の三者により、制度の今後について協議を行いたいとのことである。これについては、ワーキンググループにて、本年秋の日循理事会を目途として原案を準備する予定である。

ステントグラフト実施基準管理委員会から、償還価格の適用について及び立会い基準の緩和についての要望提出への賛同依頼があった。前者については問題なく賛同し、後者についてはすでに前述の通り結果が出ている旨を先方に連絡した。

日本腎臓学会から提案のあった慢性腎臓病に関する合同委員会について、今後の対応は国内交流委員会を窓口とする。

以上について、承認された。

16) コメディカル委員会

水野委員長から以下の点について報告があった。

日本心電学会が実施している臨床検査技師に関する心電図業務認定制度について、日循としての参加を継続して検討している。心電図業務が基本的なものであるため、多様な職種の人たちが認定を受けられるようにするべきであるという方向で先方に回答している。臨床工学技師会が「臨床ペースメーカー・ICD 技術認定士制度」を計画しており、日循に協力要請がある。まだ実施の詳細についてははっきりしないところがあるため、関係者のヒアリングを行い、今後検討を行う予定である。以上について、承認された。

第4号議案 年次学術集会に関する件

1) 第72回年次学術集会報告

第72回学術集会松崎会長から以下の点について報告があった。

一般演題 3,838 中 2,345 題を採択(採択率 61.1%)した。23会場(ポスター会場含む)とし、48.5%は英文での発表とした。本日開催のライブデモンストレーションは約 1,000 名を越す出席者となっている。4会場で同時進行しており、特に PCI の会場は 600~700 名の盛会である。

美甘レクチャーは Kenneth Chien 先生に、真下記念講演は本庶佑先生に講演いただく。特別講演 10 題、プレナリーセッション 7 題、シンポジウム 20 題、ラウンドテーブル 8 題のプログラムを組んでいる。会長特別企画としてソウル大学と延世大学の先生方と日本のトップレベルの演者に再生医学、心不全、心エコーの 3 テーマについて約 4 時間シンポジウムを組んでいる。

医療従事者の過重について、厚労省関係の方も演者とし医療従事者の過重労働をどう考えるかというセッション、現在日本で行われている循環器領域の先進医療や循環器領域でどのようなトランスレーショナルリサーチを介した先端の医療が行われているかというセッションも組んでいる。

ランチョンセミナー 59 題、サテライトセミナー 31 題を組んでいる。

1万 6,000 人以上の参加予定を見込んでいる。

2) 第73回年次学術集会報告

第73回学術集会堀正二会長から以下の点について報告があった。

会期は 2009 年 3 月 20 日(金)~22 日(日)3日間、大阪国際会議場、リーガロイヤルホテル、ホテル NCB の 3 会場を予定している。

メインテーマは「リスクに挑戦する循環器病学 新たな展望と戦略」。Cardiovascular なリスクファクターのリスクに加え、社会的な意味づけにおけるリスク、循環器領域の種々の手技に対するリスクに果敢に対応していく必要があるという意味で「リスク」をテーマに掲げた。随所にリスクという言葉を使用し、テーマが生きてくるようプログラム編成中である。

美甘レクチャーは Piero Anversa 先生に、真下記念講演は審良静男先生を予定している。特別講演は、Roberto Bolli 先生以下依頼中である。

ライブデモンストレーションについては、教育セッションの一部として開催することが教育研修委員会決定している。現在のところ、土曜日を第一候補として、大阪国際会議場の大ホールでビデオセッションを中心に行う予定である。

コメディカルセッションについては、医師も聴講いただけるようなチーム医療セッションをコンセプトに行う予定である。

市民公開講座について、日曜日の午後、堂島リバーフォーラムまたは中央公会堂で開催予定である。
2009年5月APCC2009（北畠顕会長）の開催についても紹介があった。

第5号議案 その他

1) 日本医学会役員選挙結果について

議長から、日本医学会役員改選があり、循環器系では矢崎義雄名誉会員が臨床系の副会長に選出されたことが報告された。

2) 総会への上程事項について

議長から、第72回総会に上程する議案について資料の通り説明があり、承認された。

3) コメディカルへの対応について

議長から、本会におけるコメディカルに関する対応について意見を出していただきたい旨依頼があり、討議を行った。主な意見は下記の通り。

・コメディカルとメディカルとの間の情報共有が、コメディカル側から求められている。同じ土俵に立って意見を交換する場があると良い。

・認定制度はコメディカルにとって魅力的なものであるが、医学会が認定するものはインストラクター・指導士程度までにとどめるのが良いのではないかと。

・コメディカルも含める会員制度の見直しを進めてはどうか。

・学会の企画として、相互交流が図れるようなものを進めていくべきである。

議長は、これらの意見を含め、今後学会として検討していきたいとまとめた。

以上をもって本日の議事を終了し、議長から長時間の議事についての謝辞があり、閉会した。

上記の議事の経過及び結果を明らかにするため、この議事録を作成し議長並びに議事録署名人、これに署名押印する。

2008年3月27日

社団法人 日本循環器学会 2007年度第4回理事会

議 長 山 口 徹

議事録署名人 松 崎 益 徳

同 堀 正 二

(以下余白)